

発行所  
青森県高等学校・障害児  
学校教職員組合  
青森市橋本1丁目2-25  
教育会館017(734)7287  
編集発行人 酒田 孝  
購読料一部20円は組合費  
の中に含む

ゆきとどいた  
教育を求める  
教育全国署名  
教育にもっと予算を!  
学校にもっと人を!

Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ http://www.geocities.jp/aokokyoso/ ブログ http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/

# 高教組4役と教育長が懇談

9月23日、高教組4役と教育長の懇談が行われました。今回はテーマを①人事評価制度の評価結果と②長時間勤務問題の2点に絞って行いました。情勢が大きく変化する多忙化問題については、教育長は多くを語りませんでした。現場を指導していくことを約束しました。

## 人事評価結果「S」は3人

高教組・人事評価の「S」が3名という賃金リンクがスタートした。評価結果の人数や割合を教職員課からいただいた。今回、県立学校では

No image

左から酒田執行委員長、中村教育長、逢坂書記長、泉澤書記次長

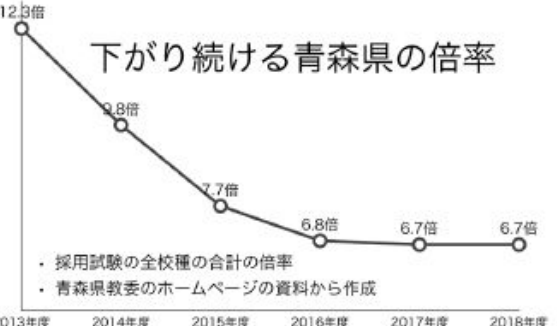
## 先生方が元気で気力を持っているのがいちばん大事

高教組・先日、中教審から教職員の長時間勤務問題についての緊急提言が出た。ICカードによる勤務時間管理、留守番電話の設置、閉庁などかなり踏み込んだ内容になっている。本県の教員採用試験の倍率は年々下がっている(右図参照)。学校の異常な勤務が話題になり、「教員はブラック」という

### 教員の仕事はブラック

高教組・先日、中教審から教職員の長時間勤務問題についての緊急提言が出た。ICカードによる勤務時間管理、留守番電話の設置、閉庁などかなり踏み込んだ内容になっている。本県の教員採用試験の倍率は年々下がっている(右図参照)。学校の異常な勤務が話題になり、「教員はブラック」という

補者として推薦できる」となっている。2016年度の文科省優秀教員は県立学校では2名であった。あと1名ほどのような理由か。教育長「それに準ずるような取り組みをしているので、そういう具体的な予想されただけでなくて、実績等からそれと同程度と見ることができた人については「S」と判断した。



噂が若い人や大学生たちの間で広がっているのではないかと。高教組・3月31日に「修学旅行等の引率にかかると4週間単位の変形勤務時間制について」を出している。振替ができて、しかも、職員に周知されていない学校も多い。なかなか現場レベルでは浸透して

いらない。教育長「世の中の会社の待遇とかも給料面でも良くなっている。多くの人に教員に憧れてもらわないと、我々の後継者がいないと困る。先生方への周知ということについても別に止めていないということはない。校長会などでもちゃんと、せっかくできた制度なので、うまく使っていく話をしていく。先生方が元気でいい気力を持っているというのが一番の大事なポイントだ。

## 坂道の風

突然、国会に解散風が吹いた。何の争点もないこの時になぜか。8月の内閣改造以降、民進党のごたごたもあり、内閣支持率は微増傾向にあった。政治的には権力を維持、拡大するために、この判断は間違っていないかもしれない。だが、国民の目線に立つとどうだろうか▼「森友・加計学園問題」「自衛隊日報問題」は明確な回答が出たとはいえず、疑惑隠しの面が拭えない。さらに、北朝鮮問題もあり、政治的空白が生じることへの不安も高まっている▼具体的争点がないだけに、投票率が下がってきた。投票率の低さは政権与党に不利することになる。安倍政権はこの機会に改憲勢力を増やし、一気に憲法改正を進める腹積もりだ▼このような時だからこそ、イメージや報道に惑わされず、私たちの意思をしっかり示す必要がある▼18歳の若者も、私たち教職員も、それぞれ一国民として選挙権がある。安倍政権の野望を打ち砕くために一票を投じ、平和の風を起こして欲しい。(K)

初任者の負担軽減を

高教組・初任研の(負担軽減について)通知を出していただいている。出張で研修に行った時は、授業を他の先生が肩代わりして、後から振り替えたりしないようにとか、担任を持たせないようにという(負担軽減の)配慮をしてくださいという内容。でも、実際に聞くと、多くの初任者が担任持って、(出張の)次の週に授業がどんときてかなり大変だという声聞かれる。新採用に対する配慮が足りないのではないかと。教育長・実際その通りすべてやれるかというやれないケースはあると思う。(教育長)張り付く。もち

非常識な勤務

高教組・夏休みの祭り巡視というのがある。(2つの学校の巡視計画を提示)延べ14日とか22日の巡視がある。時間は20時から21時。中には集合時間が22時というものもある。しかも、日曜日とか土曜日の夜。全部働かなくていい(勤務を)解決できない。教育長...。ろん振替もできない。世の中の常識からかけ離れた勤務だ。長時間勤務が蔓延して、それを現場レベルで解決できない。こういうところは何らかのメスを入れていかないと(長時間労働を)解決できない。

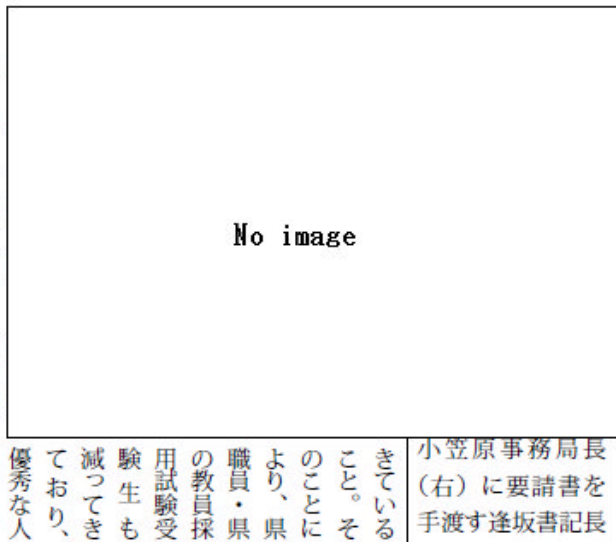
仕事の抜本的見直しを

9月16日発売の『週刊東洋経済』の第一特集は「学校が壊れる―学校は完全なブラック職場だ―」でした。教員の勤務がブラックだという評価はもはや、すっかり定着してしまっただけあります。そしてそれは、教員採用試験の倍率にも反映しているようです。このような状況を受けて、中央教育審議会は、学校における働き方改革特別部会で審議を始めています。その中で8月29日に「学校における働き方改革に係る緊急提言」が出されました。このように教職員の働き方を巡る情勢は急速に変化しつつあります。ところが学校現場では、「忙しい」、「人が足りない」と言いつつ、前例や伝統をそのまま踏襲し

が。教育長・学校規模だったり、病休の人がいたり、という形で学校経営、人を当てはめていくかという時に、止むを得ずということが出てきている。今、担任やっているというのはそういうこと。

給与の大幅引き上げを要求

9月14日、青森県公務員共闘として、県人事委員会事務局長に要請書を手渡し、交渉を行いました。要求項目は全部で10項目。今回はその中でも重点を4項目に絞り交渉しました。今回は9月29日人事委員長に署名を提出し、交渉します。



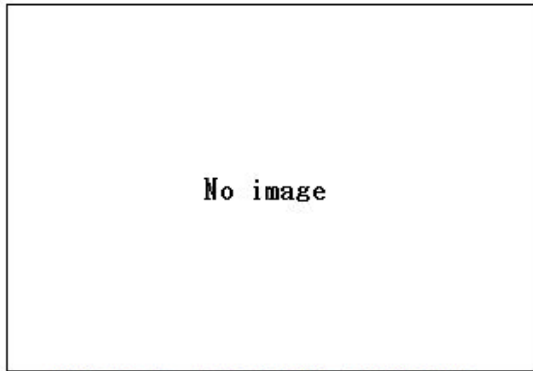
人事委員会事務局長交渉

1点目は、月例給、一時金及び諸手当を大幅に引き上げる勧告を出すこと。これに対し事務局長は、給与について長いスパンで見ている。一時金は民間調査の結果を反映させていく。と答えました。私たちは、国との格差がどんどん開いていること、さらに東北6県の中でも格差が大きくなって

え方で、臨時・非常勤職員の待遇改善に取り組むよう勧告を行うこと。国も非正規職員の待遇改善に向けて大きく動き出したので、ぜひ今年も学校現場で働く1,500名を超える臨時講師・非常勤講師の待遇改善を求める勧告を出してほしいこと。常勤臨時講師は正規と全く同じ責任で仕事をしているのに、休暇と同様に賃金に關しても現在の待遇を大幅に改善してもらいたいと要望しました。3点目は、長時間過密労働を防ぐため、勤務時間管理を徹底するよう勧告を行うこと。勤務時間管理はすべての県立学校で始まりましたが、小中学校は全く取り組まれていない現状を伝え、県教委に対してさらに管理を徹底するよう勧告してほしいと要望しました。4点目は、妊娠障害休暇を新設すること。「つわりは病気ではない」「つわりには個人差がある」ので、学校現場で、もつととりやすく、苦しいときに休めるよう特別休暇として新設してほしいと要望しました。

# 仲間の輪を広げる取組みを進めよう!

## 職場活動の活性化、組織の強化、拡大をめざす全国交流会へ



No image

開会のあいさつをする中村全教中央執行委員長。

9月23、24日、表記の集会在全国教育文化会館で行われた。「組織建設3カ年計画」最終年の今年、目標達成をめざし、各地で意欲的に取組みが進められている。特に、昨年の12月24日に沖繩で行われた「未来プロジェクト・ゆいまーる」を経験した青年たちの創意あふれる取組みが大きな広がりを見せている。一方で、取組みの意識は高まっているものの新採用

者への対話や分会訪問などの取組みすら十分に行えていない現実もある。交流会の冒頭に、これまでの3カ年計画の取組みで得た教訓と課題を明らかにし、この秋の具体的な取組みへとつなげるための基調報告と4つの道県からの特別報告が行われた。その後、7つの分散会に分か

# 民間委託を許さない取組みを!

## 全教現業職員部北海道・東北ブロック学習交流会へ

9月23日、24日、北海道札幌市で表記の集会在開催されました。参加した16名は1日目、宮ノ森・大倉山スキージャンプ場を見学し、夕方にはサッポロビール園で懇親会を行い各道県の親睦を深めました。2日目は各道県からの報告と意見交流が行われ、北

あり、「組合に加入しないう」という声かけをためらわないことが大切だと学んだ交流会であった。くると。今の時代だからこそ、職場に組合が存在することの「意味」と「価値」に確信をもつことが重要で



No image

れ、各都道府県における組合員拡大のための取組みが報告された。分散会では組合に入った経緯を含む自己紹介から始まった。「ひとりではない。仲間として戦ってくれる。」「困ったときに助けてくれる。魅力ある教師が組合員だった。」「若いからといって嫌な仕事を押しつけられる。その声を拾って改善してくれた。」「組合があるから議論ができる。視点が変わって

実践報告として秋田では「避難所開設・運営訓練」の様子と現業職員が先頭に立ち、とりくむ意義などが報告されました。最後は厳しい状況ではあるが今後の

8月21日(月)〜27日(日)、全教障害児教育部主催「北欧の障害児教育を学ぶツアー」に参加した。全教障教部では過去にも数回、このような海外視察ツアーを開催していたが、今回は17年ぶりの開催。障害者権利条約の批准やインクルーシブ教育の推進など、障害児教育を取り巻く環境が大きく変わっている今、インクルーシブ教育の先進国である北欧の学校現場を視察し、日本の障害児教育の在り方を考えることが求められてきているということから、このツアーが企画された。



校視察報告をまとめた記録集が後日発行される予定)。北欧2か国の学校現場はもろろんのこと、目に入る風景、歩いて感じる風や雰囲気、すべてが自分にとって良い思い出、経験になった。スマホの万歩計で旅行期間の累計歩数が10万歩になっていた。10万歩も歩いたのは奇跡だし、10万歩分の軌跡がそこに刻まれたものと思っている。「北欧、10万歩のキセキ」として、次号から数回にわたってこの旅での出来事や感じたことを、プチ情報と共に伝えていきたい。(黒沼修)

現業職員がどうあるべきかを考えさせられ、全国的にも進んできている深刻な問題に各県参加者も危機感を持って交渉に望むことを確認し集会を終えました。

テーマ「集いあい、学びあい、語り合い、子どもと学校」

# あおもい教育のつとめ

第67次教育研究青森大会

In あおもいに

2017

と き 11月11日(土)～11月12日(日)

と ころ 不二やホテル (大鰐温泉)

青森県南津軽郡大鰐町蔵館川原田 63

☎ 0172-48-3221

四季の湯

No image

演 題 「どうする? 始まる『道徳科』」

～いじめを乗り越える希望の教育を～

【プロフィール】大東文化大学教職課程センター准教授。  
1957年10月福島県福島市生まれ。埼玉の公立中学の社会科教員として22年間勤務したのち、大学で教員を目指す学生たちの指導にあたっている。いじめ問題にとりくんだ実践が『3年B組金八先生』でドラマ化された。ヘイトスピーチのカウンターなど路上に出る研究者でもある。専門は、道徳教育、生活指導など。単著に『いじめ・レイシズムを乗り越える「道徳」教育』(高文研)、共著に『ヒューマンライツ～人権をめぐる旅』(ころから)など。

## ● 11月11日(土)の日程

12:00	12:40	13:00	15:00	15:10	18:00	19:00	21:00
	受付	開会行事	全体講演	移動	分科会 I	休憩	夕食・交流会

### 分科会 I

生活指導 小学校	生活指導 中学校	生活指導 高校	障害児 教育入門	地域と 共同	いじめ・不登校 高校中退等	平和	日記・ 作文と教育
-------------	-------------	------------	-------------	-----------	------------------	----	--------------

## ● 11月12日(日)の日程

9:00	11:50	12:40
	分科会 II	全国レポート打合せ



### 分科会 II

国語	社会	算数 数学	理科	音楽	美術 図工	保健 体育	技術家庭 職業	外国語	障害児 教育	保健室	事務 現業
----	----	----------	----	----	----------	----------	------------	-----	-----------	-----	----------

●参加費 1,000円 ●宿泊費 12,000円(一泊二食) ●夕食懇親会のみ 7,200円  
(教職員・一般) \*組合員には各種補助あり。所属組織にご確認ください。

※大学生以下の参加費は、無料です。

※保育あり(11日/12:30～18:00, 12日/9:00～12:00)。保育料は無料ですが、おやつ  
飲み物等をご持参ください。できるだけ、事前申し込みをお願いします(当日でも可)。

※ 宿泊の申し込み締め切りは、11月2日(木)です。

【問合せ】青森県高等学校・障害児学校教職員組合 ☎ 017-734-7287

FAX 017-775-4221

E-mail aokokyos@olive.ocn.ne.jp